

授業改善プラン

地域名	東葛飾教育事務所	学校名	鎌ヶ谷市立鎌ヶ谷中学校
-----	----------	-----	-------------

1. 課題（これまでの全国学力・学習状況調査結果等から）

- 令和3年度の全国学力・学習状況調査の数学の平均正答率を見ると、短答式や選択式の正答率に比べ、記述式の正答率がやや低い。
- 領域別に見ると、平成31年度では「関数」においてのみ、全国の平均正答率より低い状況であったが、令和3年度はすべての領域で全国平均を上回っている。
- 「自己有用感」に対応する生徒質問紙調査の結果を見ると、全国平均と比べて大きく下回っている。このことから、「自分にはよいところがある」と感じていない生徒や「先生は自分のよいところを認めてくれている」と感じていない生徒が多い。
- 学校質問紙調査の「数学科の指導方法」の結果が、令和3年度には向上しているが、生徒質問紙の「数学科」に対する肯定的回答が全国平均に比べて下回っている。数学の授業について改善する必要があると強く感じている。

2. 取組のポイント（仮説、改善方法等）

- 普通の授業の中で、生徒に「なぜ」と問い返す場面を意図的に作り、自分の言葉で説明できるようになることで記述式の問題に答えられるようになることを考える。
- 振り返りシートを活用し、自分の言葉で考えをまとめさせ、自分の変容（学び）を実感させることで自己有用感が高まると考える。

3. 具体的な実践

- 授業で記述式の課題に取り組ませる際、始めに問題の内容を丁寧に説明し、どのような解答を求めているのか正しく理解させる。そして、生徒に発表させるだけで終わらず、必ず説明の仕方の指導も行い、生徒が正解に結びつく解答を正しく記述できるようにする。
- 授業中の生徒の発言（ノート記述）や振り返りシートなどの記述内容から、生徒の変容を分析する。
- 全国学調を意識した問題を毎学期定期テストに出題し、結果を分析する。

4. 成果

- 授業の中で問題の内容を丁寧に説明し、どのような解答を求めているのかを正しく理解させることができた。また、説明の仕方についても十分に指導することができた。
- 振り返りシートの記述内容を見ると、ほとんどの生徒に変化が見られ、2学期の方がより良い内容であった。
- 定期テストの記述問題の結果を分析した結果、約55%の生徒が正解、もしくは正解に近づく解答を書くことができた。

◆担当指導主事から（東葛飾教育事務所 指導主事 竹蓋 大毅）

- 本年度は、課題である思考力を高めるために、授業内で全国学力・学習状況調査を意識した記述式の問題を扱い、グループ活動を中心とした授業実践を行ってきた。自分自身の言葉で論理的に問題の解決方法を話し合う活動を取り入れることで、思考力の向上につながった。また、生徒の自信をもって発表する姿から自己有用感の高まりが感じられた。